

< 口腔の役割 >

鱶 (ワニ)

桐生が岡動物園水族館。こぢんまりとした水族館ですが、その中に目を引く一匹のワニが佇んでいます。幼少時、本物のワニを初めて見たのはこの水族館だったという人もきっと多いのではないのでしょうか。名前はメガネカイマンの「ピーチ」。多くの生き物達はこのような名前（愛称）が付けられているのがこの水族館の特色です。

ワニの咬む力は地球上に現存する生物の中では最強であり、顎の強さが最大級の恐竜であるティラノサウルスに匹敵するともいわれます。ワニの歯の数は上下合わせて80本あり、平均寿命20~30年の間に20回以上も生え変わることから、生涯のうちに生え変わる歯は2000本にもなるそうです。

ところ爬虫類のワニやヘビは口が裂けて頬（ほほ）がありません。ですから獲物が横から落ちないように鋭い歯で押しえつけて丸飲みします。一方、哺乳類はその名の通り哺乳をします。頬がないと乳汁がこぼれてしまうことから進化の過程で頬ができたといわれます。

出生直後の赤ちゃんには表情がありませんが、顔面表情筋は目や口の開閉のために発達する筋肉ですから授乳により発達します。そしてこの動きが赤ちゃんの表情を次第に豊かにします。頬があるおかげで口に食物をためて咀嚼することができます。これが顔面表情筋をさらに進化させることになるのです。つまり咀嚼することで表情が豊かになるということになります。しかしこれとは逆に、食べる動きが無くなると顔の表情が次第に衰えることになります。

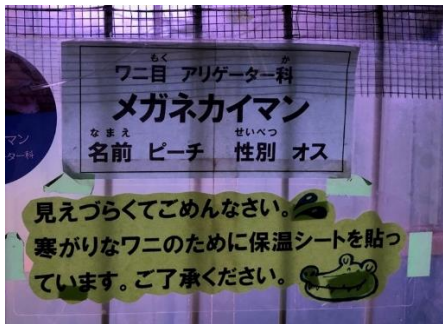
ヒトは生涯、たった1回しか歯は生え変わらず、その後は28本の歯で過ごすことになります。もしも歯が欠損した場合はただちに義歯を入れるなどの対応が必要になります。咀嚼運動が少なくなると、顔面表情筋が進化の逆をたどる、すなわち表情筋の減少や拘縮（こうしゅく）により、表情が衰えることにつながるからです。

さて水族館の「ピーチ」ですが、ほとんど動かずじっとしています。水槽の横には「生きてます！ワニはまちぶせハンターなので動かずにいることが多いのです。（水槽を）たたかないでね。」と書かれています。ワニは下顎を地面（水槽の底）に付けてその振動を骨伝導で頭に伝えて正確に音を感じています。さらに視覚や嗅覚も非常に優れているといわれ、爬虫類の頂点に君臨する非常に賢い生物です。もしかしたら「ピーチ」は無表情ながら毎日の来館者数

や、さらにその足音で子供か大人かを聞き分けて過ごしているかもしれません。



桐生が岡動物園水族館



メガネカイマン「ピーチ」

メガネカイマンはアリゲーターの仲間です。アリゲーターは革の高級カバンで有名なクロコダイルと異なり、口の先が丸っこくて上から見るとU字型をしていて口を閉じると歯が見えないのが特徴です。口を閉じたときに歯がいっぱい飛び出して見えるのはクロコダイルです。

【歯科口腔外科診療部長 今井 正之】

